

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター

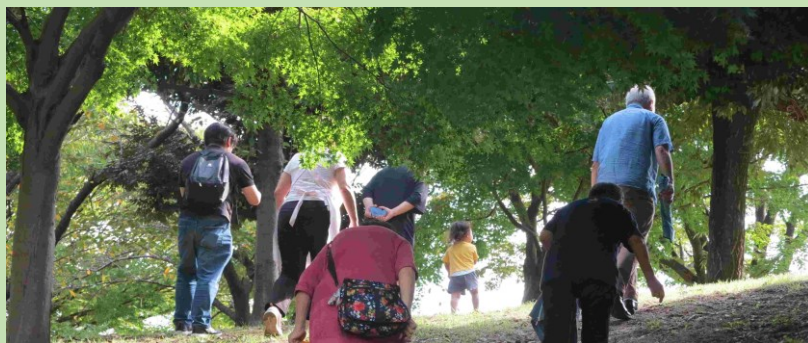
住所:名古屋市東区泉 1-13-34

名建協 2階

TEL:052-971-2030

FAX:052-971-2050

開館:月曜～金曜 10時～17時



秋の紅葉ならぬ緑一色の残暑の中、汗を流しながらの散策(10/6@東海市しあわせ村)

交流会の一コマ



避難後習った琴を演奏する学生キリル君 「ウクライナ避難者支援大交流会」作品展示(11/9-10@西尾)

(主催:あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク)

【支援情報】「令和6年能登半島地震により二次避難・
広域避難で愛知に来られたみなさまへ」

- 「能登半島地震避難者支援ネットワークあいち」
(認定NPO法人レスキューストックヤード内)
被災・避難のこと、支援制度のこと、不安なこと、
どこに相談したらよいかわからないことなど、
まずは気軽にご連絡ください。

Tel : 052-253-7550 (平日 10:00～18:00)

E-mail : info@rsy-nagoya.com

【名古屋市内にお住まいの方の窓口】

- 被災者支援ボランティアセンターなごや

Tel : 070-5587-7153(平日 9:00～17:00)

電話相談・来所相談いずれもお受けしています。

【2024年度11月号154号】

もくじ

- P1. 表紙写真: 交流会の一コマ
P2. 交流会報告:「岩手県・宮城県 気軽にお
茶飲み交流会」@東海市
P3. ふくしま交流相談会@郡山市
P4. 能登半島地震避難者支援・交流相談会
「じんのび能登カフェ」(第2回)@東別院
P5. 穴水→名古屋子ども交流ツアー
P6. より快適な避難所の支援を考える③
イタリアの避難所(下)
P7. おすすめの一冊『ビキニの海は忘れない』
P8. イベント情報、あいち・なごやウクライナ避
難者支援ネットワーク、編集後記

【交流会報告】「岩手県・宮城県気軽にお茶飲み交流会」10/6（日）10：00～15：00

@東海市しあわせ村 保健福祉センター

《近況報告》

参加者は、交流会実行委員の皆さんなど7世帯8名の避難者に加え、在宅保健師、ハーブ・笑いヨガの専門家・昼食作りの絆カフェのボランティア他で、交流会はにぎやかに開催され、皆で近況報告をしました。どのように過ごしていたか、病気から元気に復帰できた、仕事に区切りをつける、など様々。

《昼食は大好評のカレー》

昼食は前回も好評だった手作りカレー。皆さんが「おいしい！」と、ぞくぞく「お代わり〜」。絆カフェのボランティア5名と一緒に作りました。新米、野菜、漬け物も提供して頂きました。

《お楽しみコーナー》

クラフト細工では、ハロウィーンや彼岸花などを制作し、テーブルに飾られたリンドウの花と共に、“ちいさい秋”を楽しみました。

また今回のハーブティーは、“飲むビタミン”（鈴木さんの説明）と言われるマテ茶を味わいました。似内さんのパッチワーク作品も多数展示。

《笑いヨガ》

“笑いヨガ”は、最初はちょっとぎこちなかったのが、その内、顔を見合わせながら楽しく笑い、皆さんの心がほぐれてすっきりとし、「またね。元気だね」と終了。

《全員集合写真》

集合写真は、取り直しの写真が一番良い顔でした。終了後のアンケートには、「皆さんの元気な姿を見て安心しました」「とても楽しい時間を過ごしました」「明日からまたがんばれます」「また次も参加したい」等、楽しまれた様子がうかがえました。



ふくしま交流相談会 11/2(土)～3(日) @いわき市、郡山市

11月2日～3日、県外避難者の方の避難元(福島県)での交流相談会を開催致しました(主催:レスキューストックヤードふくしま支援室、協力:愛知県被災者支援センター)。岐阜・三重・愛知県に避難されている方を対象に、8世帯19名の方が参加されました。

1日目は博多から東京行きの新幹線に乗り込んだのですが(豊橋からの参加者はひかりで)、なんと！山陽地方の大雨の影響で新幹線が100分以上ストップし、皆さんがその影響でいわき市に着くのが2時間も遅れてしまい、スケジュールの変更を迫られた結果、浜通りの視察を中止することになってしまいました。新幹線の中では「生まれて初めての体験、本日で東京に着くのかしら?!」と不安の声。いわきに2時間遅れで到着した時はホッと安堵しました。

1日目のいわき市の「いわき放射能市民測定室 たらちね」で、実際の放射能測定等の活動、バスで浜通りの視察。2日目の午前中が交流相談会で、「富岡町3・11を語る会」の語り部さんのお話と、意見交換会です。相談対応は、「ふくしまの今とつながる相談室『toiro』」、今年4月にオープンした「社協連携避難者支援センター郡山」。特に後者は、富岡町、大熊町、浪江町の3町の社協職員が郡山社

協の事務所に同席し、活動されています。

2時間も遅れたにも関わらず、「たらちね」のおかげで活動視察は午後3時半から実現し、皆さんが熱心に目と耳を傾けていました。2日目の交流会の自己紹介の際には、中学生の参加者から、「たらちね」の活動に触れて、「放射能の怖さ」「段ボールでの生活の写真を見て悲しかった」と感想が述べられました。その後いわき市観光物産センターに立ち寄り、少々疲れた心を癒し、宿泊地の郡山市へバスで向かいました。



2日目は昨日とは反対に晴天に恵まれ、郡山の市民交流プラザ(ビッグアイ)でお昼すぎまで交流会を開催できました。「富岡町3・11を語る会」の語り部さんの活動紹介、参加者同士のグループでの意見交換会、個別相談です。

決死の覚悟で避難を決断されてから10数年、避難元が今、どうなっているのか、避難元ではどのような生活をされているのか。「ふるさとに帰りたい、帰れない」との思いを秘めながら、それがいつになるのかわからないが、同じ思いをもった方たち同士の避難元での交流は、とても意義深いものであり、またそこに参加した子どもたちも何らかの気づきがあったはず、そう信じながら、来年の交流会の内容は

いかに、と考える帰路でした。

(ふくしま支援室 仲田法子)



能登半島地震避難者交流相談会「じんのび能登カフェ」 10/14(月・祝)@東別院

＝能登半島地震避難者支援ネットワークあいちからの報告＝

10/14(月・祝)、第二回避難者交流相談会が東別院で開催されました(主催:能登半島地震避難者支援ネットワークあいち〈事務局:認定NPO法人レスキューストックヤード〉、被災者支援ボランティアセンターなごや 協力:中部石川県人会、石川県、愛知県、名古屋市、愛知県弁護士会、愛知県司法書士会)。



能登各市町(珠洲市、能登町、輪島市、志賀町)から、11世帯24名の避難者・

同伴ご家族が参加されました。8月の交流会には5世帯10名の参加でしたが、その後、連絡が取れたり個別訪問、避難先市町村を通してのご案内などで、ほぼ倍の参加者がありました。

最初に主催者のレスキューストックヤード、被災者支援ボランティアセンターなごやのご挨拶があり、その後、被災地石川県の担当者から、スライドを使って地震の復旧状況の説明がありました。

参加された方々は、同じ町の住民だった方同士が出会ったり、情報交換を行ったり、話し込まれている方々も見られました。

また会場では、在宅保健師に体や常用する薬についての相談や血圧測定を受けて、一安心。



個別相談で、被災住宅等について順番に弁護士、司法書士に相談する姿も見られました。

フリータイムには、真宗大谷派の関係者からオリジナル念珠づくりを教わる人、ハーブコーナーではちょっと恐るおそのるの感じで手浴を経験。ハーブティーのマテ茶を味わいながら、しばし“ホッと一息つける時間”になっていればと思いました。

能登半島地震被災児童応援企画「穴水→名古屋 子ども交流ツアー」(RSY 主催)

能登半島地震被災地支援で、穴水町で支援活動を行うレスキューストックヤード(RSY)の主催で、穴水町から子どもたちを招き、名古屋で交流する「穴水→名古屋 子ども交流ツアー」が行われました。学生ボランティアとして参加された佐藤ららさん(東日本大震災の避難当事者)に、交流ツアーの報告をしていただきました。

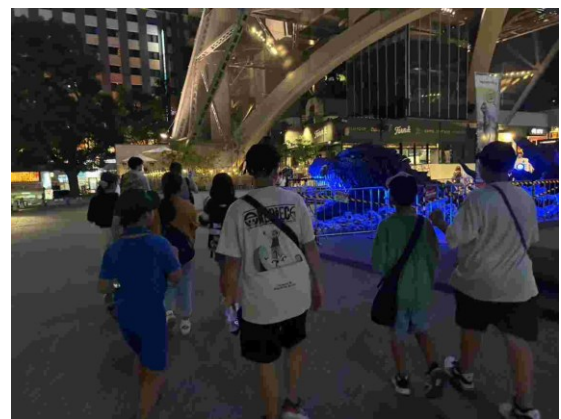
ツアーのスケジュール <1日目：名古屋港水族館、東別院でバーベキュー、テレビ塔

2日目：ナガシマスパーランド、名古屋市・矢田小学生と交流 3日目：名古屋市科学館>

8月の19日から21日まで、私は穴水→名古屋 子ども交流ツアーに学生引率ボランティア(スタッフ?)として参加しました。このツアーには、穴水町の小学4年生から6年生の約70名の子どもたちが参加しました。初めは子どもたちも、私たちボランティアも緊張した雰囲気でしたが、話し始めるとすぐに打ち解けて、笑顔が見られました。子どもたちはどこでもとても元気いっぱい、好奇心旺盛で、一緒にいる私たちが元気をもらう場面もたくさんありました。ツアーではそれぞれの班に分かれての観光が多かったのですが、別の班の友達や学年を超えて話したり、仲良く遊んだりしている姿をたくさん見かけて、素敵な関係だなど心が温くなりました。

ツアーの中で私が強く印象に残っているのが、バスでの移動中、隣に座った6年生の女の子との会話です。彼女は、能登半島地震の影響で遊びに行ったり、自分の好きな運動がなかなかできなかったこと、地震の警報が鳴るたびに怖い思いをしていたことを打ち明けてくれました。「だから、東別院でのバーベキューで、みんなと走り回って鬼ごっこをしたことがとても楽しかったんだよ!」と嬉しそうに話してくれた時は、私もとても嬉しい気持ちになりました。自分の好きなことを私に話してくれていた彼女の目は、とっても輝いて生き生きとしていました。大変なことがあった中でも、自分の気持ちをしっかりと持って進んでいこうとしている彼女の姿を見て、中学に進んでも今頑張っている陸上を続けたいという夢を、私も心から応援したいと思いました。

私自身、13年前の東日本大震災の当時、福島県で被災し、生活が大きく変わった経験があります。その時、話をしてくれた彼女と同じように、地震の警報に敏感になって怖い思いをしたり、親の大変さを身近で見ているからこそ、自分の気持ちをなかなか素直に表現できずに、窮屈に感じていたことがありました。子どもたちの様子を見たり、話を聞いていると、穴水町の子どもたちにも同じような思いを抱えている子がたくさんいるのではないかと感じました。そんな彼らにツアーの中で私ができたことは、話を聞いたり、子どもたちと思いつき遊んだりすることだけでしたが、それが少しでも彼らの元気やこれからの生活の励みになっていたらいいなと思っています。



2泊3日という短い期間でしたが、子どもたちとも、一緒に頑張った引率の学生のたちとも、とても濃い時間を過ごすことができました。今回の素敵な経験と出会いを大切に、日々の生活を頑張り、そして、これからも穴水町とつながり続けたいなと思っています。(淑徳大学4年 佐藤らら)

より快適な避難所の支援を考える③—人権が守られる・イタリアの避難所の例(下)

==南海トラフ地震が来る前に==

(あおぞら編集委員：瀧川裕康)

《イタリアの例》

1. 災害関連死が減少することに成功！

1980年11月のイルピニア地震で災害関連死が多かったことを反省し、自治体中心の対策から常設の国家機関＝[市民保護局]を設立し、国が直接関与することで、災害関連死が直接死を上回ることがなくなった。

2. 避難所の環境改善で役立ったことは？

①避難所設営のための具体的な基準、いつ、どこに、どれぐらいの大きさの避難所か、トイレや簡易ベッドをどれぐらい準備するかを明文化する。
②職能支援者を雇用。例えばコックさん、トラック運転手などは被災地までの交通費、仕事を休むのに雇用者は拒否できず有給休暇が保障される。

3. 仮設住宅が広い＝2LDK～3LDK など！

室内には家具、電化製品など至れり尽くせり。入居期限は自分の住宅が再建されるまで。



(↑仮設住宅↑)

4. ローマの市民保護局で対策会議！

災害発生後1時間以内に対策会議が開かれる。メンバーは、首相、市民安全省長官、軍、警察、消防、赤十字、科学者団体、ボランティア組織のリーダーなど担当業務の責任者。この会議でそれぞれの実働部隊や全国のボランティアに必要な指示が出される。

例えば、避難所設置のための各種重機、暖房装置、食堂用大テント、キッチンカー、トイレ、コンテナ型の仮設住宅、被災地に近くに住む専門性の訓練がされたボランティアなどが現地に送られる。



(↑対策会議の様相↑)

5. 美味しい食事！

「家を失ったり、大災害にあった時、心の慰めとなり安らぎとなるのがまず食事、心も体も温めてくれます！」とキッチン責任者。



6. ボランティア団体は登録制！

全国で3,144、それが全国組織58、州組織36、県内組織21、それ以外791等となっていて、それが活動領域別に、緊急保健・衛生、緊急援助、文化財対策、市民意識啓発、再建援助などと幅広い。

《日本では》

～避難所を改善したいと声を上げよう～

国民（被災者）が災害時であっても人間らしい生活を確保することに強い意識をもって、現状を変革しないと変わらないのではないかと「こんな避難所が欲しい！」と声を上げたい！

イタリアでは、国の予算は基より、個人や会社の寄付がすごく大きい。これは台湾でも同じことをお聞きした。

そこで、次のように“人権”を問う「災害救助法」に変更されることを求めたい。

第1条 目的＝国は、被災者に無償で、健康で文化的な生活の保障と、元の生活を取り戻すまで、国を挙げて支援することを目的とする。

===日本もあと一押し！===

<参考資料>

①[人道的な避難所設営と運営を](視点・論点)

新潟大学 特任教授 榛沢和彦

②[イタリアの震災復興から学ぶもの]

神戸大学名誉教授 塩崎賢明

③[イタリアの防災体制とボランティアの役割]

文教大学情報学部非常勤研究員 吉井博明

おすすめの一冊

『ビキニの海は忘れない』～核実験被災船を追う高校生たち～

幡多高校生ゼミナール/高知県ビキニ水爆実験被災調査団編

発行元:平和文化 発売元:汐文社 (編集委員 富田祥子)

この本は、高知県の幡多高校生ゼミナールの生徒たちが、地元漁民に聞き取り調査をした記録が元になり、発行されました。

この本の発行はちょっと古く、1988 年です。「なぜこの本を？」と不思議に思われる方もいらっしゃるかと思いますが、この調査はこの夏、NHK クローズアップ現代でも取り上げられました。さらに今の世界情勢を見ていると、当時の核実験の実態を知る事も大切な時では、と思います。

1954 年 3 月にビキニの水爆実験で犠牲になった第 5 福竜丸の被曝の事は多くの人が知っており、今も毎年マスコミでも追悼式などが報道されます。しかしこの高校生の調査は、別のマグロ漁船の乗組員やカツオ船で、実習後に白血病で死亡した水産高生の事を知りたくて始まりました。それはビキニ環礁で核実験が始まって、30 年以上経過してからの事です。

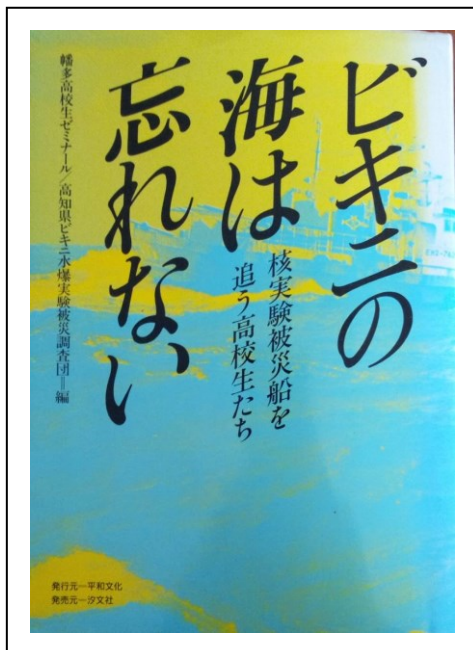
そしてビキニ水爆実験での被爆船は、第 5 福竜丸以外にも 856 隻（別の資料では、カツオ兼業船も入れ 1,200 隻を超えとも）を超え、捕った魚は“放射能魚”として廃棄された事が分かりました。高校生たちは、主に土、日曜日を使って地元の漁師などに聞き取り調査を行いました。最初は 30 年以上も口を閉ざしていた漁師たちも、地元の高校生が熱心に尋ねて来るので心を開き始め、真実を少しずつ話すようになりました。

乗組員以外の漁業関係者からは、当時、「マスコミが騒ぎ立てるのでマグロが売れなくなった」「操業海域をごまかして報告した」「マグロの検査（当時は放射能検査がされていた）のない港に水揚げした」などの証言もありました。そしてマグロ以外の魚も魚価が半額以下に下がり、倒産も続出した事が分かりました。マグロ漁船の乗組員の中には、長崎で被爆して、その後高知県に移ってマグ

ロ漁船員となり、ビキニ水爆実験で被曝して命を落とした人もいる、という事も分かりました。

やがて生徒たちの調査は、県下の科学者、医師、

被爆者、漁民、平和運動家、教職員を動かし、「高知県ビキニ水爆実験被災調査団」が結成されます。そして高知県や土佐清水市などの行政も動かす、大きな力に変わります。さらに、顧問教師たちはマー



シャル諸島共和国にまで行き、核実験の日の町の様子や島民のその後の健康状態などの聞き取りを始めます。そして核実験は放射能の恐ろしさだけではなく、アメリカの援助の分配をめぐる対立が起こり、国は 4 つに分裂してしまった事を知ります。

私はこの本が出版された少し後に、幡多高校で聞き取り調査に参加した生徒の 1 人に会って話した事があります。彼は、「高校生にもこれだけの事が出来るんだ」と語っています。

この本を紹介しようと考えて少ししてから、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞が決まりました。しかし、世界情勢は各地で紛争が起こり、核競争がますます激しくなり、核使用の恐怖さえ感じます。ビキニの問題は、決して過去の出来事ではなく、今日の問題でもあります。

【イベント情報】 ＊開催・内容等が変更になることがあります。詳しくはチラシでご確認ください。

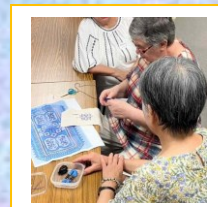
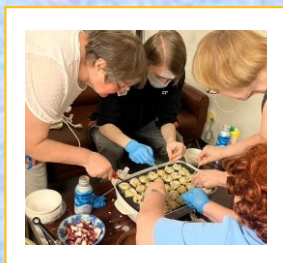
開催日	イベント名	内容（主催・共催など）	会場
12月1日(日) 10:00～14:00	3 団体合同交流会 「冬のあったか 芋煮会」	共催：愛知県被災者支援センター、被災者支援ボランティアセンター なごや、震災・原発事故による県外避難者自主グループめぐりあいの会、能登半島地震避難者支援ネットワーク	発達センターあつた(名古屋市熱田区神宮) 地下鉄名城線「熱田神宮伝馬町」2 出口 5 分、市バス「熱田伝馬町」7 分、名鉄「神宮前」10 分
12月21日(土) (午後の部) 14:30～	劇団飛行船「ピーター パン」&ミニ交流会	劇団飛行船・マスクプレイミュージカル鑑賞(無料)とミニ交流会	日本特殊陶業市民会館(名古屋市金山) JR「金山」/地下鉄名城線「金山」 徒歩 5 分
2025年1月18 日(土) 10:00～11:30	あおぞらカフェ 「ハーブソルト作 り」	好評のハーブソルトを作り、ジャガイモの試食 主催:あおぞらカフェ実行委員会	レスキューストックヤード 地下鉄名城線・桜通線「久屋大通」1A 出口徒歩 3 分

ウクライナ避難者の近況 「ししゅうの会」9/28(土)@RSY

(あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク:事務局レスキューストックヤード)

猛暑のため 2 ヶ月間お休みだった、東日本大震災避難者のバッチワーク教室とウクライナ避難者の合同の「ししゅうの会」を行いました。

今回は特に、17 歳でたった一人避難してきた A 君(現在 18 歳。黒の T シャツの男性)が、東京での日本語学習に旅立つための励ます会を兼ねていたことから、多くの参加者が集まりました。A 君をたこ焼きパーティーで送る準備をしていた所、ウクライナ女性たちの手作り料理の差し入れがたくさんあり、また合唱グループの音楽も加わって、にぎやかな励ます会となりました。



【編集後記】

- ・秋、見つけました①気温が秋でした②キンモクセイの香りを頭から浴びて来ました③パンジー、ガーデンシクラメンを買って来ました④夕日が沈む時間が早い⑤スダチを頂きました♥今年一番の秋(T.S)
- ・イタリアの古い資料を読んでいる 知らないことが 沢山見える/そりゃそうだ 失敗歴史 その上に今の姿が 素晴らしく見え/そうならば 日本の明日 そうせねば きっと良くなる それを夢見て(T.H)
- ・自分ではネットで買い物をしたことがない。近所ではしょっちゅう配達車が止まっている。田舎に住む妹は、近場にお店がなくてもネットで買い物できて便利と。それぞれの事情があるのだ (T.K)